

■意見要旨

○議題(1)～(3)に対する質疑・意見

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
1	<ul style="list-style-type: none"> ・松本市の潜在力や既存・将来の居住者にとっての魅力について、よりシャープに整理・表現する必要がある。 ・駅周辺の過ごし方は可処分所得や時間が多いこと、教育環境の充実、東京都とのアクセス性などを、定量・定性的にわかりやすく示すべきである。 ・面白いキャッチコピーを出して、そこで思考停止してはいけない。 ・市外への発信力がブランド力につながることを意識されたい。 ・松本市の特徴を示しているようだが分かりにくい。対外的に分かるように、端的に定量・定性的に示してほしい。 ・データは、松本市の戦略に繋がるようにまとめていただきたい。 ・今の足元を見て考えましょうという「I.はじめに」と、20年後の目標としていることの流れが矛盾しているので、自然に繋がるストーリー作りが必要。 ・「パブリックライフ」を松本で取り上げる意味は2つある。 1つは、教育が充実しているので子育て世代が常に入ってくるが、その世代が10年、20年経ったときにも変化するライフスタイルに対応できることをアピールできる。 2つは、まちなかでは多様な世界・多様な世代のライフイベントが同時発生しており、それを享受できることを打ち出すとよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「三ガク都」の考え方は、松本市のまちづくりの方向性と通じており、松本市らしさを示す軸になり得る。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・えきしろ空間内は居住者もおおり、「歩行＋自転車」で生活が完結できる環境整備が重要である。 ・通学する学生はまちなかを「通過」しているだけである。大学生等がまち中に住める環境が不十分で大学周辺に住むしかない状況であるため、まちなか居住の検討を深めるべきである。 	<p style="text-align: center;">—</p>

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
3	<ul style="list-style-type: none"> ・学生はまちなかで滞在・回遊していない実態がある。 ・徒歩圏に個人商店が減少し、高齢者が生鮮食品を買うことが難しくなっている。 ・松本は県外からみれば教育面においても魅力がある一方、移動が多い集団が松本でどう過ごすのかを考えなければならない。 	—
4	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の検討は、「モノ消費」ではなく「コト消費」など、人が集まる仕組みを、公共交通や駅、バスターミナルを含め、公民が連携し、何ができるのか議論したい。 ・駅周辺施設が営業的に苦戦していることを踏まえ、市が強いリーダーシップを持って官民の役割分担を整理し、建設的な議論を進めてほしい。 	—
5	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場のお城口とアルプス口は利用状況等の差が大きく、市内の道路の流れが変わる中で、どのように駅前広場を整備するのが非常に重要である。 ・駅前記念公園は休む場程度にとどまっており、使われ方を大きく変える必要がある。また、周辺の道路は、道路の歩行者専用化など、大胆な交通・空間再編が必要である。 ・公園通り・花時計公園周辺は、松本シェーナ開業も踏まえ、伊勢町・あがたの森通りなどの周辺も含めた広がりのある視点が必要である。 	—
6	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ・子育て・文化・交通が充実した環境は、他都市から羨ましがられる生活につながり、人を惹きつける。 ・松本駅は交通ハブとしての役割が重要であり、その価値を明確にした上で駅前空間をきれいに整え、利便性を高めることが必要であり、来訪者の期待が高まる。 	—
7	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗管理として、定量データを用いて将来の目標と現在地を可視化する必要がある。 ・出店支援や財政支援など、具体的な施策を示すことで民間参加につながる。 ・子育てしやすいまちづくりは大切であり、パブリックスペースの関係性を含めて具体的に検討されたい。 	—
8	<ul style="list-style-type: none"> ・松本の魅力は「まち全体が一つの施設のように感じられること」であり、駅前はその玄関口として、わかりやすい駅やバスステーションの環境整備が必要である。 	—

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
9	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や子育て世代において、自転車利用の視点は重要であり、まちなかに駐輪スペースが不足していることが課題となっている。駅前直接行くのではなく、途中で駐輪しパブリックライフを楽しむ過ごし方も大事である。 ・駅前記念公園は利用イメージが薄いエリアであり、今後の方向性の整理が重要である。 	—
10	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックスペースは、パブリックの扱いが広く抽象的になりすぎると、「誰のための場所か」「自分が使える場所なのか」が不明確な空間になってしまう。「あなた自身が何かをする場」であり、共感できるルールのもとで使われる場にする必要がある。 ・若者の挑戦の入口を支援する人材や接点づくりが必要である。 	—
11	<ul style="list-style-type: none"> ・松本駅と駅前記念公園は大きな方向性を明確にし、駅前記念公園は地下機械式駐車場の更新判断も含めて検討が必要である。 ・「住んでみたい」と思える日常が重要であり、松本でしかできないと思える取組みを優先すべきである。 	—
12	<ul style="list-style-type: none"> ・車道を狭め歩行空間を広げるウォークアブル施策を参考にされたい。歩くだけでなく、立ち止まって飲食や会話を楽しむ光景がパブリックライフとして重要である。 	—
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングモールとは異なる、「駅周辺ならではのパブリックライフ」を整理する必要がある。 ・の方策は「パブリックライフ」という言葉が何度も出てきてわかりづらく、もう少しかみ砕いてほしい。 ・駅周辺を歩行者優先にするためには、通過交通を抑制する道路ネットワーク整備が前提になる。特に、駅西側の都市計画道路整備が交通規制を変えるような社会実験実施の前提条件であり、その整備時期を一つの節目として施策を整理すべきである。 ・公民それぞれが担う役割をビジョン上で整理し、行政投資と民間誘導の役割分担を明示する必要がある。 ・財政的制約を踏まえ、施策の重点化・優先順位付けを行うべきである。 ・箇条書きでも構わないので、端的にシャープに整理するように。 	—

以上